

食卓から がん予防

井藤久雄

がんは遺伝子の異常が蓄積されて生じる慢性の病気です。遺伝子を傷つける物質は変異原物質と呼ばれますが、その多くは同時に発がん物質です。

発がん物質の存在は、特定の職業に従事する人に特定のがんが発生することで明らかになりました。

これを職業がんと言います。1775年に英国のポット博士が初めて報告しました。発見の舞台はロンドン。煙突掃除人の陰囊がん(皮膚がん)でした。

当時、煙突の掃除は大人と子どもがコンビを組み、子どもがロープをつけて煙突の上から暖炉に下りて作業していました。そうすると全身にすすを浴びます。成人してから陰囊がんが多発していたのです。

認定されている職業がんは少なくありません。染料工場従業員の膀胱がん(原因物質はナフチルアミン)▽靴製造やゴム工場の白血病(ベンゼン)▽クロム鉱山の肺がん(クロム)▽医

プロローグ③発がん物質の評価

国際がん研究機関の発がん性分類

(2018年11月9日時点)

グループ 1 (120種類)	発がん性がある	アルコール飲料、加工肉、中国産塩蔵魚、たばこ(能動、受動)、アフラトキシン、アスベスト、ダイオキシン、放射線、1,2ジクロロプロパン、中性子線など
グループ 2A (82種類)	おそらく発がん性がある	赤肉、65度以上の熱い飲み物、アクリルアミド、亜硝酸、ジクロロメタン、ディーゼルエンジン排ガス、PBCなど
グループ 2B (311種類)	発がん性がある可能性はある	ワラビ、糞物、ガソリン、高周波電磁界、ニッケルなど
グループ 3 (499種類)	発がん性について分類できない	コーヒー、カフェイン、お茶、マテ茶、蛍光灯、静磁場、超低周波、水銀など
グループ 4 (1種類)	おそらく発がん性はない	カプロラクタム(ナイロンの原料)

職場で暴露長い潜伏期

療従事者の皮膚がん(エックス線)一などです。

た。全面禁止されたのは2012年。よく知られているようにアスベストを吸い込むと、肺がんや胸膜中皮腫が発生します。

潜伏期間は前者で13~25年、後者で15~40年で、「静かな時限爆弾」と言われています。悪性胸膜中皮腫の発生は20年以降に増加のピークを迎えると予測されています。

職業がんから学ぶべきことは、発がん物質に暴露してから臨床的に診断される

までには15年から40年の長い潜伏期があることです。実はがん細胞の成長・進展は一般に考えられているよりもはるかに遅いのです。

国際がん研究機関(IARC)は世界保健機関(WHO)の外部機関です。1965年にフランスの主導で西独、イタリア、英国、米国によって設立されました。現在は18カ国で運営されており、アジアからは日本、韓国、インドが参加。発がんメカニズムの解明や発がん物質の評価・解析、がんの病理学的分類、用語の標準化に取り組んでいます。

確かに、グループ1には発がん性の強いアスベストやダイオキシンなどが含まれていますが、発がん性自体は微弱であるものの発がん性が明らかかなアルコール飲料や加工肉も含まれています。

次回からは食卓に上る発がん性リスクのある食品や食材の具体例を提示します。

【本日のメッセージ】日常生活の中には、多種多様な発がん物質があります。国際がん研究機関の発がん性分類は、発がん性の程度ではなく、確かさを示しています。

2012年5月には大阪市の印刷会社で印刷機の洗浄液に含まれる化学物質「1,2ジクロロプロパン」

IARCは化学物質や細菌・ウイルス、放射線の発がん性について、権威ある医学雑誌の論文を解析して毎年改訂し発表しています。発がん性の確かさは5段階に分離・分類しています(表)。